

## 2 2 . 北陸新幹線の早期完成について

北信越部会提出  
説明担当 小松市

北陸新幹線は、我が国の高速交通体系の柱として、日本海国土軸の形成や国土の均衡ある発展に不可欠な国家プロジェクトであり、沿線地域の飛躍的な発展を図る上で大きな効果が期待されるとともに、大阪までフル規格で延伸することによる鉄道事業の需要予測は大きく、経済波及効果や収支改善効果は極めて大きいことが明らかとなっています。

さらに、北陸新幹線は大規模災害時等に東海道新幹線の代替補完ルートとしても重要な役割を担う高速交通基盤であり、平成23年3月に発生した東日本大震災は、大規模災害に強い高速交通ネットワークの必要性をますます高めています。

このような中、平成26年度末を完成予定とする長野—金沢（白山総合車両基地）間の整備が着実に進められるとともに、金沢（白山総合車両基地）—敦賀間の整備についても着手されたところではありますが、依然として大阪までの全線フル規格による整備方針は不明確であり、建設財源の安定的確保など多くの課題が残されています。

つきましては、金沢（白山総合車両基地）—敦賀間の早期整備及び北陸新幹線の一日も早い全線開通に向け、着実な整備推進を要望しますとともに、下記の事項について、格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

### 記

#### 1 北陸新幹線の早期完成

- (1) 長野—金沢（白山総合車両基地）間の平成26年度内の確実な完成
- (2) 金沢（白山総合車両基地）—敦賀間の早期整備
- (3) 大阪までのフリーゲージトレイン（軌間可変電車）導入によらないフル規格による整備方針の明確化及び大阪までの早期全線整備
- (4) 小松駅・加賀温泉駅整備事業及び手取川橋梁等の主要構造物の工事等の早期着手

2 建設財源の確保により整備促進を図るとともに、地域負担について適切な財源措置を講ずること。特に、既着工区間の工事費の増額分については、沿線の地方自治体に新たな負担が生じないように対処すること。

3 並行在来線について地方負担の軽減、運行のあり方（維持経費の助成措置、線路使用実態に見合った貨物線路使用料の見直しなど）も含め、新たな方策を早急に講じるとともに、経営の安定化に向け、支援施策の充実を図ること。